

翻訳にあたってのヒント

その 47

色にちなんだいろいろな英語

第 4 回

● Brown

英語の「Brown、茶」には、「落ち着き、つつましさ、自制心」といったプラスイメージがある一方で、「憂うつ、物悲しさ、陰気」といったイメージもあるという。

土、鉱物、陶器、樹皮、樹肉、果物、朽ち葉、動物の毛皮、お茶、コーヒー、タバコなどにみられる Brown 系の色は、人類にとっておそらく最も身近な色だと考えられる。さらに、人の肌や髪の色を形容する言葉として「褐色、茶色、きつね色、とび色」や日焼けした肌色など、多数の使われ方もみられる。また、Brown という姓をもつ欧米人が多いが、これは肌か毛髪からつけられたニックネームに端を発しているようで、Browning、Brownfield、Bruno、Brun、Bruni、Le Brun などその類だそうである。アフロ系アメリカ人にこの姓が多いと言われているが、その理由は自らの肌色に対する誇りあるいは Brown 神父（奴隷制度反対運動家）にちなんでのことだといういわれがある。また、brown には「不機嫌」の意味もあり、例えば以下に書いたように Brown off...に「～をうんざりさせる」という意味があるが、これはこの色が暗く濁っているところから派生したとも考えられる。ただ、日本語では、この意味では茶色ではなく「灰色」の人生といった言い方をするとところがまた面白いところだ。

茶系統色に関連する英語は以下の通り。

- I usually brown-bag it, but yesterday I went out to lunch with some people from work. いつもは弁当を持参するのだが、きのうは職場の人達と外へ食べに行った。
- The kids get brown as berries when we take them to the beach. 子供達をビーチへ連れて行くと、(コーヒー豆のように) 真っ黒になる。
- be in a brown study 「物思いにふける」「ただ単に) ぼーっとしている」
- brown someone off 「(人を)うんざりさせる」
- brown-nose 「おべっかを使う、こびを売る、こびへつらう (他動詞)」「ご機嫌取り、ゴマすり人間 (名詞)」
- do someone brown 「(人を)をだます、ペテンにかける (イギリス英語)」
- have a brown thumb 「園芸の才能がとぼしい (反対は、have a green thumb)」

これにて、47 回目終わり。